

---

---

# 平成30年度

## 相川小学校 校内研究の概要

---

---

### 1 研究テーマ・サブテーマ

進んで考え 豊かに表現する子どもの育成

～外国語教育における言語活動を通して～

### 2 研究テーマ設定の理由

#### (1) 社会的課題と要請から

平成29年6月、文部科学省から新学習指導要領の解説が公表された。総則編には、これからの時代が、「生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となる」ことが記されている。

では、「グローバル化」とは、何なのか。国際教育交流政策懇談会によると、<sup>1</sup>「人、物材、情報の国際的移動の活性化」、「他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象」であるそうだ。そのグローバル化により、<sup>2</sup>「アイデアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させるとともに、(中略)異なる文化との共存や国際協力の必要性を増大させている。」のだという。グローバル化の加速に伴い、刻々と変化する社会の中で、児童はその変化にどのように向き合い、関わっていくかが大きく問われている。

今の児童の現状は、「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自ら能力を引き出し、学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくという面に課題を残す」と言われている。グローバル化する社会において、児童が自己の能力を発揮し社会に貢献するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要である。

つまり「何を知っているか」だけでなく、それを使って「何ができるか」が重要なのである。

今回の改訂の要点として、グローバル化に対応すべく、小学校第3・4学年に「外国語活

---

<sup>1</sup>「情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人、物材、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象ととらえることができる。」(「グローバル化と教育に関して議論していただきたい論点例」より 国際教育交流政策懇談会)

<sup>2</sup>「知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させるとともに、製造業等の海外移転による国内雇用の変化をもたらしている。また、異なる文化との共存や国際協力の必要性を増大させている。」(「グローバル化と教育に関して議論していただきたい論点例」より 国際教育交流政策懇談会)

動」が、第5・6学年に「外国語科」が新設された。「児童が将来どのような職業に就くとしても、外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される」からである。言語能力を高め、多様な人々とコミュニケーションを図ることができる基礎的な力<sup>3</sup>の育成と、多様な文化や価値観を持つ人々との出会いや交流の機会により、外国語をコミュニケーションツールとして生かしながら主体的で体験的な理解を導き、生きて働く表現力の育成が必要とされている。

以上のような社会的な課題（特にグローバル化への対応）や学校教育への要請を踏まえ、「知識・技能」のみならず、外国語を「どのように使うか」、外国語を通して「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」といった観点から、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」もバランス良く育成を目指していくことは、今日的課題でもあり、研究を進める必要性があると考えられる。

## (2) 本校の目指すもの（学校教育目標から）

「生きる力」として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」があげられるが、本校の学校教育目標も、知・徳・体のバランスのとれた人間形成をめざしており、「生きる力」の理念につながる願いが込められている。

### 学校教育目標

「つよく かしこく うつくしく」

#### 具体目標

- 健康で、最後までやりぬく子ども
- 自ら学び、進んで物事を解決しようとする子ども
- 思いやりがあり、自他にやさしく心豊かな子ども

「確かな学力」とは、学ぶ意欲や基礎的な知識や技能に加えて、自分で課題を見つけ、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力のことである。習得した知識・技能を活用することを通して、思考力・判断力・表現力等を育成することが、児童の確かな学力を育むことにつながる。本校のめざす具体目標「自ら学び、進んで物事を解決しようとする子ども」は、まさしく自ら学び、考えるという主体的な態度を養い、物事を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を目指していることであり、「生きる力」を知の側面から支えている「確かな学力」の理念に合致している。

学校教育目標の具現化に向けて、今年度も「確かな学力」に求められている思考力・判断力・表現力等の育成をテーマに研究していくことが必要であると考えた。

<sup>3</sup>コミュニケーション能力については様々な考え方があがるが、文部科学省の有識者会議の報告（コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」平成23年8月29日）においては「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義している。本ワーキンググループにおける議論においては、こうした定義も踏まえ、外国語教育における特質に配慮しながら、外国語によるコミュニケーション能力について、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語を通じて、身近な話題から社会や世界、他者との関わりの中で幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力として整理している。

### (3) 研究の経過から

本校では、平成25年度に山梨県教育委員会より学力向上パイロットスクール事業の指定を受け、言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等を高めることで、確かな学力を児童に身につけさせることをねらいとし研究を進めてきた。

理論研究、実践研究に取り組むとともに、家庭と連携した学習習慣づくりや読書の推進、また、言語環境の整備にも力を入れ、様々な側面から言語活動を充実させ、児童の思考力・判断力・表現力等を育むための取組を実践してきた。学習過程やノート指導など全校で共通した内容に取り組んだことでそれぞれの学年で成果を上げることができた。

また、昨年度は、それまでの本校の実践と甲府市から提案された『甲府スタイルの授業』を合致させ「学びの深まりを大切にした学習活動の工夫」を意識し、学びの深まりを導くための授業改善を行った。それとともに、新学習指導要領の導入に向け「深い学び」・「道徳」・「外国語」の理論研究も行い、両方の面から、児童の思考力・判断力・表現力等を育むための実践をしてきた。

そこで、今年度は、昨年度小グループで行った「外国語」の理論研究や「外国語」の学習会で学んだことを全体で共有し、実践に移していきたい。昨年度までの成果である学び合う姿や自力解決し表現しようとする姿勢を外国語教育にもうまく生かしつつ、新学習指導要領全面実施を見据え、教師はまず、やってみる、慣れる、課題を見つけることを目標とし実践を積み、児童が外国語教育において必要な資質・能力を身に付けられるような授業づくりを研究していく必要があると考える。

### (4) 児童（6学年）の実態から

- ・昨年度は、年間35時間の外国語活動を行った。
- ・児童は、外国語活動の学習を楽しみにしている。
- ・1時間の授業：あいさつ・前時までの振り返り→本時扱うセンテンスや単語の意味(繰り返し発音練習)→定着とコミュニケーションのためのゲーム。
- 発音練習について
  - ・FETの発音を注意深く聞き、繰り返し練習。
  - ・反復練習し定着をはかったが、日常生活で使うことがあまりないものについては定着できない。  
→日常生活の中に英語を使うような場面を意図的に作り、さらに慣れ親しませていくことの必要性。
- 聞くことについて
  - ・FETのゲームの説明(長いフレーズ)は、文としてすべてを理解することは難しい。  
ジェスチャーを交えたり、単語を指し示したりすることで文の概要を聞き取り、ほぼ、指示されたように動くことができていた。
  - ・集中して聞き取ることで「話す」につなげることと、細かいところは理解できなくてもおおよその内容を聞き取り活動に移すことは、身についている。  
→より多くの英語を聞くことの必要性。
- 話すことについて
  - ・質問したり答えたりすることは数多く経験し、楽しむことができた。
  - ・定型的な会話のやりとりばかりになってしまい、自分で内容を工夫したり、発表したりすることまではできていない。  
→主体的な学習の必要性。  
→話すことに抵抗感をなくすことの必要性。

○言語や文化に関する気づき

- ・外国語と日本語との比較などを通して言語の共通性や相違性を発見し、言葉の面白さや豊かさに気付いた。
- 様々な文化や生活環境・多様なものの見方に気付けるために、さらに外国の生活の様子や日本との関わりなどを扱う必要性。

○書くこと

- ・自分や友達の名前を書くことはできる。写して書くことはできる。
- 今後学習の中に入ってきたとき、どこまで求めるのが課題。

○コミュニケーション

- ・やりとりの場面は数多く設定し、楽しむことができた。
- 「相手意識を持って会話をする」状態へと高める必要性。

以上「社会的課題と要請」，「本校の目指すもの」，「研究の経過」，「児童の実態」から，研究テーマを「進んで考え 豊かに表現する子どもの育成」，サブテーマを「外国語における言語活動を通して」と設定し，研究を深めていく。

これまでの研究で育ててきた児童の思考力・判断力・表現力等を，継続した取組の中でさらに高めていけるよう，テーマの具現化を図る。

### 3 研究テーマ・サブテーマのとらえ方

#### (1) テーマ「進んで考え 豊かに表現する子ども」について

本校で24年度から継続研究している本テーマは，「生きる力」の具現化において目指す3つの資質・能力の中の一つである「思考力・判断力・表現力等の育成」に合致している。また，その資質・能力は外国語教育においても重要であると考え。そこで，外国語教育においての，本テーマの捉え方を以下のように示す。

○「進んで考える」ということ

- ・対話<sup>4</sup>から，必要な情報を見つけ取り出すことができる。
- ・取り出した情報と既習の学習内容を関連づけて，進んで自分の考えを持つことができる。

○「豊かに表現する」ということ

- ・自分の考えを言葉やジェスチャーなど様々な方法を使って他者に伝える事ができる。
- ・目的意識や相手意識を持って，コミュニケーションを図ることができる。

#### (2) サブテーマ「外国語における言語活動」について

言語活動について，『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』では，

「外国語活動」や「外国語」の目標の中で，コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成するのは「言語活動を通して」とされており，言語活動は外国語活動や外国語科において核である。

と明記されている。

<sup>4</sup> ここでいう「対話」とは，友達との言葉の交流だけでなく，情報や価値観を共有していない相手との言葉による交流も含む。

ここでは、各教科における言語活動と外国語教育における言語活動の捉え方の違いが示されている。

外国語教育における言語活動の捉え方を、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動としている。

要するに、「日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動」、「英語は用いているが、考えや気持ちを伝え合う要素がない活動（発音練習・歌・文字を機械的に書く活動）」は言語活動とは言い難いそうだ。

外国語教育の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、(読むこと)、話すこと、(書くこと)の言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地（基礎）となる資質・能力の育成」である。外国語教育の目的を「英語を上手に話せるようになる」ことだととらえ違いをしてしまわないよう、何のために英語表現を学んでいるのかを実感できる授業づくりが必要である。

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動に取り組むに当たり、

- ・外国語に慣れ親しみ、様々な活動に興味関心を持つことができる（主体的に学ぶ態度）
- ・コミュニケーションを図り、学び合うことができる（人と関わり学び合う態度）
- ・自分の思いを伝えられ、達成感を感じられることができる（自己実現しようとする態度）

姿を目指して授業を仕組んでいきたい。

そのために、児童が聞いたり読んだり、話したり書いたりする必然性のある活動が必要になってくる。指導者は、指導する際に、必然性を持たせるために、相手や目的を明確にした場面や状況設定を行い、コミュニケーションする相手に対し、何のために伝えるのかを考えること（目的意識）、相手が聞きたいことを考え、理解しやすいように伝える気持ち（相手意識）を持たせることが大切であると考え。

母語以外の言語を学ぶことにより、外国の人とコミュニケーションをすることができる可能性は広がり、世界観も広がっていく。コミュニケーションの目的は、相手を理解し、認め、受け入れることであり、自分が言いたいことを伝えるために、どのように表現すればよいのか、相手を理解するために、どのように聞けばよいのかについて学ぶことが、これからの児童が未来を生き抜くための礎になるであろう。

#### 4 研究の目標

外国語教育における言語活動を仕組むことで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする（進んで考え、表現しようとする）児童を育む授業の在り方を明らかにする。

#### 5 目指す子ども像と育てたい力

言語活動を通して

- 外国語に慣れ親しみ、様々な活動に興味関心を持てる子ども（主体的に学ぶ力）
- 人とコミュニケーションを図り、学び合う子ども（相手意識を持ち、人と関わり学び合う力）
- 自分の思いを伝えられ、達成感を感じられる子ども（自己実現しようとする力）

#### 6 研究の視点（目指す子ども像に近づくための手立て）

- ①児童の興味・関心のある題材の設定
- ②単元におけるゴールの明確化
- ③聞く・話す必然のある活動
- ④相手意識、目的意識を持たせるコミュニケーション
- ⑤楽しさを体験し、やり遂げる達成感を持てる取組

- ⑥外国語を使ってみたくなる教材の作成と活用の仕方
- ⑦授業の流れのパターン化

## 7 研究方法

(1) 教科・領域 : 外国語活動, 外国語科に向けて

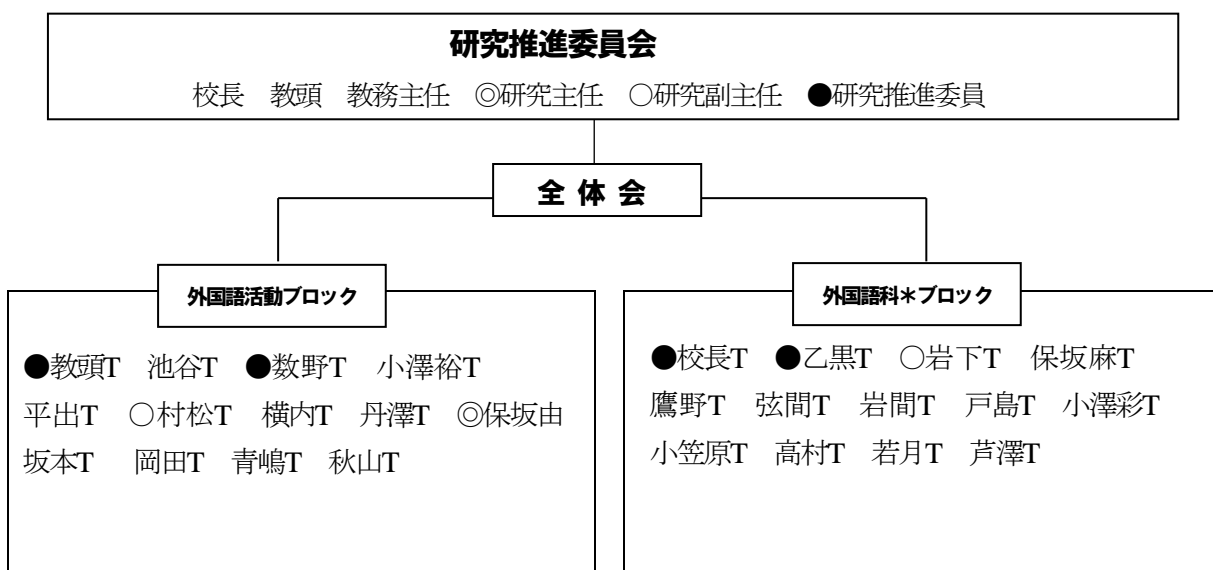
(2) 内容

- ・実態調査 比較/課題と目指す子ども像の共通確認→テーマに反映
- ・学習会(理論研究)
- ・指導案検討と授業研究
- ・外国語活動・外国語科に向けての授業実践と改善
- ・研修会による教師の資質向上
- ・先進校の授業実践や校内における外国語活動の授業への積極的な参観  
校外(必ず一人1回) / 校内(可能な時間)
- ・「授業の流れ(モデル)」「指導案・ワークシート」「評価」  
「教室環境」「掲示物」「ICT機器の活用」  
「教具(写真・絵カード・DVD・CD)」などの整備と改善

(3) 方法

- ・学習会の実施 : 指導主事を招聘し, 理論研究の場としたり, 授業実践の在り方などについて学んだりする。
- ・全体研究会 : 研究の方向性や各ブロックの内容を共有する。
- ・ブロック研究会 : 外国語活動ブロックと外国語科\*ブロックに別れ研究を進める。  
授業のパターンや児童の見取り, ワークシート・評価, 環境・掲示などについても検討していく。  
全面実施までには全単元の教材を揃えられるようにする。
- ・授業実践 : やってみて慣れて課題を見つけることを目標に全職員が実践する。  
低学年は日常的に, 慣れ親しめる機会を設けていく。
- ・研究授業 : 各ブロック1本, 研究授業をうつ。
- ・実技研修 : ICTのスムーズな活用を通して, 新教材の扱いに慣れる。

## 8 研究組織



\*ここでいう外国語科とは, 二年後の完全実施を見据えて, 外国語科の内容について研究するという趣旨で位置づけたもので, 移行期期間に外国語科に取り組むということではない。

## 9 研究構想図

<p><b>山梨県学校教育基本目標</b></p> <p>個性を生かし、生きる力をはぐくむ「やまなし」人づくり</p>	<p><b>学校教育目標</b></p> <p>つよく かしこく うつくしく</p> <p><b>具体目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康で最後までやりぬく子ども</li> <li>○自ら学び、進んで物事を解決しようとする子ども</li> <li>○思いやりがあり、自他にやさしく心豊かな子ども</li> </ul>	<p><b>新学習指導要領の趣旨</b></p> <p><b>「生きる力」の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな学力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能の習得</li> <li>・思考力、判断力、表現力等の育成</li> </ul> </li> <li>○豊かな心</li> <li>○健やかな体</li> <li>●「何のために学ぶのか」</li> <li>●「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識、技能」</li> <li>・「思考力、判断力、表現力等」</li> <li>・「学びに向かう力・人間性等」</li> </ul> </li> <li>●「どのように学ぶか」             <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学び</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>甲府市学校教育指導重点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「生きる力」を育む教育課程の編成</li> <li>○確かな学力の育成</li> <li>○「思い遣る心」を育む生徒指導の推進</li> <li>○健康・体力の向上</li> <li>○信頼される学校づくりの推進</li> </ul>	<p><b>本校児童の外国語教育における実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことに関して、文として全てを理解できないが、集中して聞くことで、おおよその内容を捉えることができる。</li> <li>・話すことに関して、定型的な会話のやりとりのみで、自分なりに内容を工夫したり発表したりはできない。</li> <li>・書くことに関して、自分や友だちの名前を書いたり、写して書いてりすることはできる。</li> </ul>	

**研究主題**

# 進んで考え 豊かに表現する子どもの育成

～ 外国語教育における言語活動を通して ～

**「進んで考える」ということ**

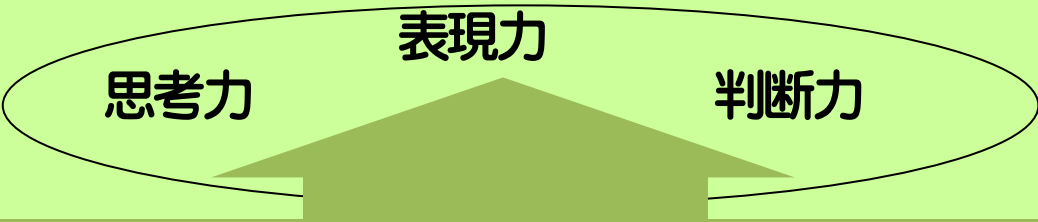
- 対話 から、必要な情報を見つけ取り出すことができる。
- 取り出した情報と既習の学習内容を関連づけて、進んで自分の考えを持つことができる。

**「豊かに表現する」ということ**

- 自分の考えを言葉やジェスチャーなど様々な方法を使って他者に伝える事ができる。
- 目的意識や相手意識を持って、コミュニケーションを図ることができる。

**目標**

外国語教育における言語活動を仕組むことで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする（進んで考え、豊かに表現しようとする）児童を育む授業の在り方を明らかにする。



- 外国語活動ブロック**
- ・学習会
  - ・指導案検討と授業研究
  - ・外国語活動の授業実践と改善
  - ・研修会による教師の資質向上
  - ・先進校の授業実践や校内の外国語活動の積極的な参観
  - ・「授業の流れ（モデル）」
  - 「指導案・ワークシート」 「評価」

- 外国語科\*ブロック**
- ・学習会
  - ・指導案検討と授業研究
  - ・外国語科に向けての授業実践と改善
  - ・研修会による教師の資質向上
  - ・先進校の授業実践や校内の外国語活動の積極的な参観
  - ・「授業の流れ（モデル）」
  - 「指導案・ワークシート」 「評価」

## 10 研究経過

1年次(平成30年度) 「やってみる」 「慣れる」 「課題を見つける」	環境づくり 実践 課題の具体化	<input type="checkbox"/> 研究テーマとサブテーマの設定、研究計画の作成 <input type="checkbox"/> 研究ブロックの編成 <input type="checkbox"/> 公開授業の参観 <input type="checkbox"/> 各ブロックの授業実践及び改善 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 1年次研究課題の整理 <input type="checkbox"/> 2年次研究に向けた方向性の共通理解
--	-----------------------	--

※各ブロック内で、指導案通りに流すことで、授業の流れを確立してきた。

※「振り返りシート」は、全クラス共通するものを使用した。

※「環境整備・掲示物」は、来年度さらに充実したものにしていく。

※教材は、来年度も引き続き整理し、全面実施に間に合うようにしていく。

※研究の進め方をバックワードデザインで考えていく。今年度出てきた課題を始め様々な課題を具体化し、ゴールに向かう道筋を確立していく。

月	日	曜日		内容
4	16	月	第1回推進委員会	・平成30年度校内研究の概要及び方向性について検討
5	21	月	① 全体会	・平成30年度校内研究の概要及び方向性について提案 ・相川スタイルについて ・小学校における外国語教育について ・総合教育講座 環流報告
6	4	月	② 全体会 ブロック研	・平成30年度校内研究の概要及び方向性について決定 (研究テーマ・サブテーマの捉え方について) ・ブロック別 理論研究と研究計画
	25	月	③ 全体会	・学習会 義務教育課 深沢裕也指導主事招聘 ・低学年の活動について
7	13		第2回推進委員会	・研究授業に向けて ・校内の掲示について
	17	火	④ 全体会 ブロック研	・授業について、掲示について、指導案について
	25	水	⑤ 全体会 ブロック研	・指導案について ・研究授業に向けて ・環境整備
8	20	月	⑥ 全体会 ブロック研	・教育課程環流報告 ・研究授業に向けて ・環境整備
10	10	水	臨時全体会(1)	・第5学年指導案検討
	22	月	⑦ 研究授業	・第5学年1組研究授業 総合教育センター 山田睦子指導主事招聘
11	16	金	臨時全体会(2)	・第3学年指導案検討
	19	月	⑧ 研究授業	・第3学年2組研究授業 甲府市教育委員会 大森豊指導主事招聘
12	12	水	第3回推進委員会	・今年度のまとめに向けて、今後の方向性の確認



	20	木	⑨ 全体会 ブロック研	・研究紀要作成について ・アンケートについて ・一人一実践について ・成果と課題の明確化 ・分担マニュアル/コミュニケーションのポイントの検討
1	21	月	⑩ 全体会 ブロック研	・全小英山梨大会について ・各ブロックの成果と課題の共通理解 ・分担マニュアル/コミュニケーションのポイントの検討
2	15	金	臨時校内研(3)	・第6学年授業内容の概要について
	21	木	授業実践	・6学年1組授業 文部科学省 直山木綿子教科調査官 指導助言
	25	月	⑪ 全体会	・研究のまとめ(成果と課題) 来年度の方向性について ・6学年授業環流報告

#### 【参考文献】

- ・直山木綿子『初等教育資料4月号 新学習指導要領の全面実施に向けて 外国語活動・外国語科』2018 東洋館出版
- ・金城太一『初等教育資料2月号 小学校外国語教育のこれまでとこれから』2018 東洋館出版
- ・直山木綿子『初等教育資料2月号 新しい教科 高学年外国語科』2018 東洋館出版
- ・直山木綿子編『小学校外国語活動のツボ』2014
- ・昭和町立 西条小学校 「平成29年度研究紀要」平成29年11月
- ・蕨崎市立 穂坂小学校 「平成29年度研究紀要」平成30年3月
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』平成29年
- ・文部科学省『小学校学習指導要領 解説 総則』平成29年6月
- ・文部科学省『小学校学習指導要領 解説 外国語活動編』平成29年7月
- ・文部科学省『小学校学習指導要領 解説 外国語編』平成29年7月
- ・文部科学省『今後の英語教育の改善・充実方策について 報告  
～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～』平成26年
- ・文部科学省『グローバル化と教育に関して議論していただきたい論点例』平成24年
- ・文部科学省『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために  
～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～(審議経過報告)』平成23年
- ・奈須正裕『資質・能力と学びのメカニズム』平成29年 東洋館出版
- ・教育課程課『初等教育資料3月号 教育課程改定の方向』2017 東洋館出版
- ・中央教育審議会教育過程特別部会『論点整理(報告)第7期』2015
- ・国立教育政策研究所『資質・能力 理論編』2016 東洋館出版
- ・中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善  
及び必要な方策等について(答申)』2016
- ・国立教育施策研究所  
『学校における持続可能な発展のための教育(Education for Sustainable Development : ESD)』2012
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年2月
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年3月